

籾水分情報 Vol.9

令和6年9月10日
農業技術研究センター

高温の影響により、例年より出穂が早まりました。気象庁は今後も高温になると予報しており、登熟は早く進み、収穫期の前進が予想されます。高温時には玄米の成熟よりも帯緑色籾の減少が遅れることがあるため、刈り遅れないよう籾水分を確認し、25%になったら収穫を開始しましょう。また、高温時には籾水分のばらつきが大きくなるため、平均値だけではなく、その分布も刈取適期判定に重要です。そこで当センター玉井試験場内水稻ほ場の籾水分状況を調査し、原則として、毎週火、金曜日に公表しています。

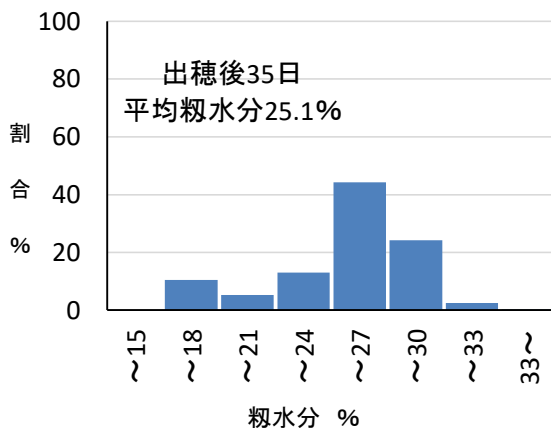
ほ場の観察や籾水分の確認と併せて本情報を活用いただき、適期の刈取りを行い高品質米を生産しましょう。

9月9日現在の状況

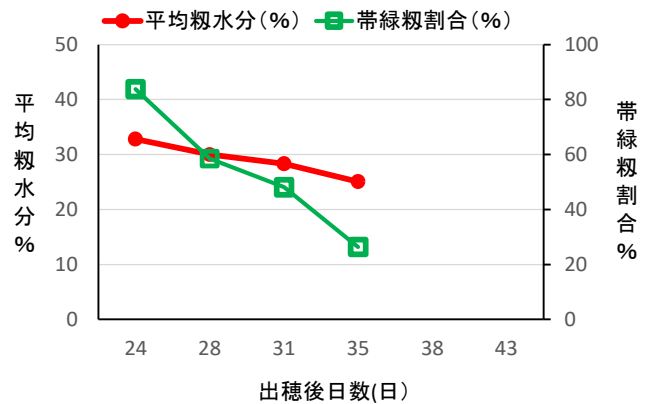
◎ 5月29日植「彩のきずな」

(出穂期：8月5日、出穂後35日、出穂～測定前日までの積算気温 980℃)

- 籾水分の平均値は25.1%です。単粒の籾水分では分布のピークは24～27%ですが、バラツキが大きく、18%以下のものが1割程度見られています。帯緑籾割合は26.3%と急激に低下し、写真のように玄米の登熟は進んでおり、速やかな収穫開始が必要な状態でした。また、今後も高温が予報されており、収穫適期幅が短くなると思われます。秋雨前線の影響を受ける時期であるため、予報を確認し、降雨前に収穫作業を行いましょう。降雨後は、籾や茎葉が乾いてから収穫作業を実施し、倒伏や登熟ムラの大きい箇所は刈り分けを行いましょう。



○籾水分の分布



○平均籾水分、帯緑籾割合の推移

* (参考) 早植栽培「彩のきずな」の収穫適期の目安
登熟積算気温 900～1200℃、帯緑籾割合 50～10%

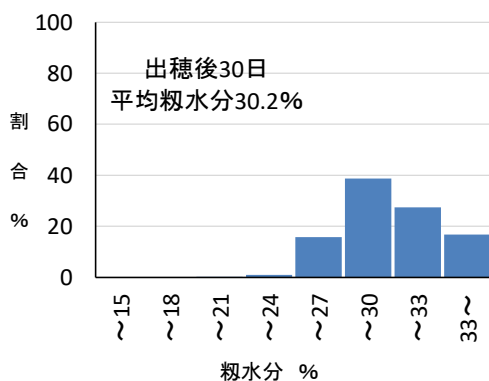


○5月29日植「彩のきずな」、出穂後35日（9月9日）の玄米（篩目1.8mm）

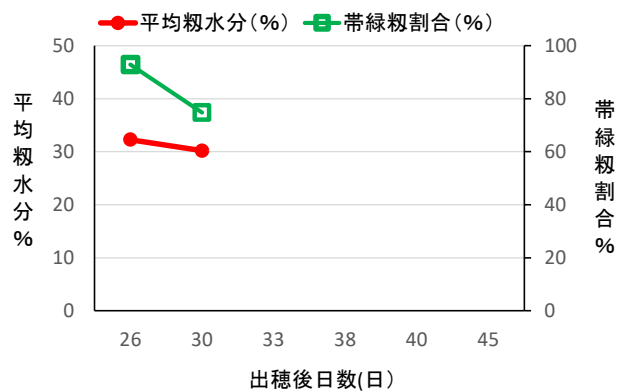
◎ 5月21日植「彩のかがやき」

（出穂期：8月10日、出穂後30日、出穂～測定前日までの積算気温832℃）

- ・ 粳水分の平均値は30.2%です。単粒の粳水分では27%以下のものが2割程度みられていることから、今後粳水分は急速に低下すると思われます。また、秋雨前線の影響を受ける時期であるため、連続した降雨により適期収穫を逸しないよう予報をこまめに確認し、収穫の準備を行いましょ。



○ 粳水分の分布



○ 平均粳水分、帯緑粳割合の推移

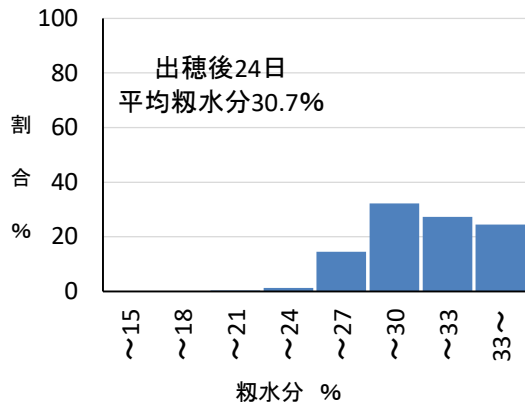
* (参考) 早植栽培「彩のかがやき」の収穫適期の目安

登熟積算気温910~1110℃、帯緑粳割合 穂の下部、3割程度に青みが残っている頃

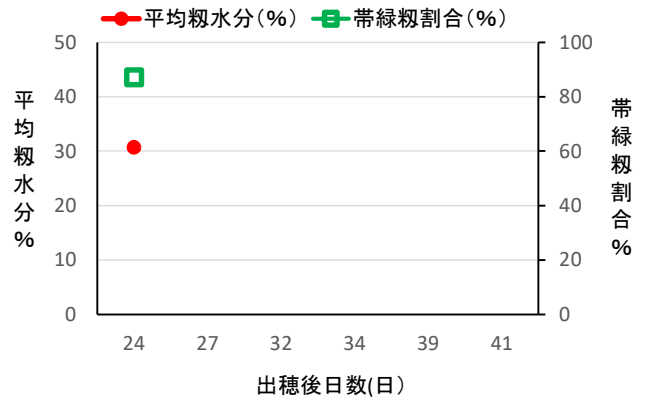
◎ 6月25日植「彩のきずな」

(出穂期：8月16日、出穂後24日、出穂～測定前日までの積算気温 649℃)

- ・ 籾水分の平均値は30.7%です。単粒の籾水分では27%以下のものが1割5分程度みられ、分布のピークは27～30%となっています。今後籾水分は急速に低下すると思われるので、収穫の準備を行いましょう。



○ 籾水分の分布



○ 平均籾水分、帯緑籾割合の推移

* (参考) 普通期栽培「彩のきずな」の収穫適期の目安

登熟積算気温 900～1100℃、帯緑籾割合 30～10%

* 単粒水分の測定方法：午前10時30分頃、中庸な1株からサンプリングした約10本分の穂を脱粒し、2.1mm目の篩により不稔籾を除いた籾を単粒水分計により測定(2反復)